OWNER'S MANUAL

4702-Ⅲ

プリメインアンプ

この度は、プリメインアンプ4702-Ⅲをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品を正しく、また性能を十分にいかしてお使いいただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書を良くお読みください。またこの説明書は、必要なときにすぐお読みになれるよう、保管されることをお勧めいたします。

4702-Ⅲ 取扱説明書

目　次

※説明の便宜上、イラストは実物と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ● This set is designed for use only in Japan and cannot be used in any other country. ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

通風孔のある機器のみ

●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。

・この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。
・この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
・テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。

●この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

分解禁止

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ

●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（ワット／容量）数を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電池を使用する機器のみ

●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

主な特長

●モードの切り替えで2ch、3ch、4chの使い分けが可能

接続するスピーカーシステムに応じて有効なパワーハンドリングを実現します。

●ソースレベルとマイク1レベルにプリセット機能

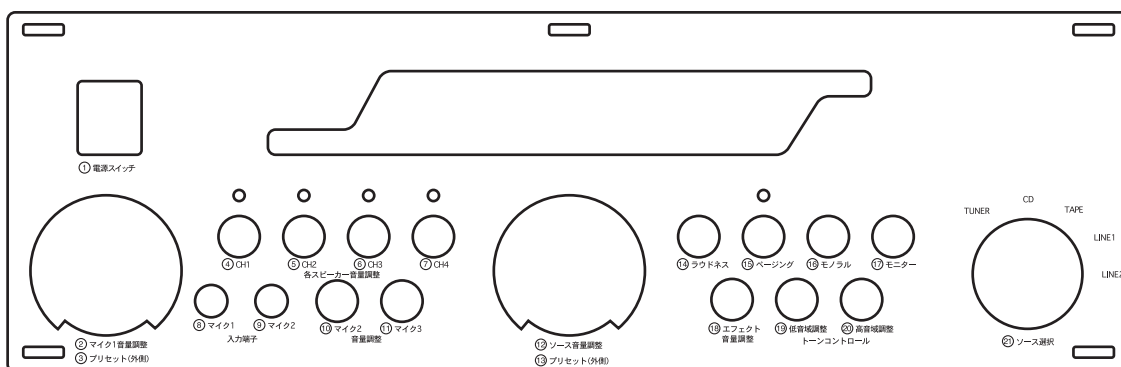
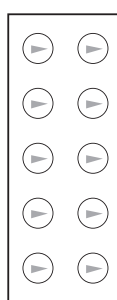
使用する毎に必要なパワーを素早く取り出せます。

●BOSE EQ専用入出力端子装備

ボーズのアクティブEQ装備のスピーカーシステムとの接続が容易になりました。

●マイク入力3系統装備

付属品

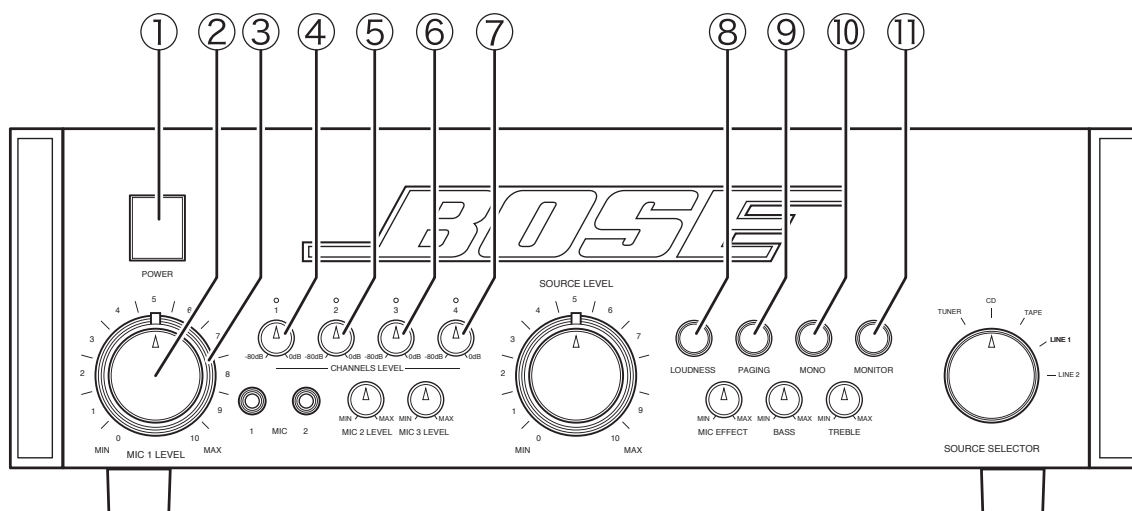
●操作補助シート（1枚）

●ポイントシール（1枚）

ポイントシールの使い方

マイクの音量や、ソースの音量、各アンプのレベルを調整したら、付属のポイントシールをつまみの目印にあわせて前面パネルに貼ってください。間違えて、つまみを動かしてしまっても調整した音量に簡単に戻すことができます。

製品のゴム足について

●ゴム足は素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性あります。事前にご確認のうえご使用ください。

●付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。

各部の名称と働き

①POWER（電源スイッチ）

POWERを押すと、電源がONになり、BOSEのパネル周囲が点灯します。もう一度押すとOFFになります。

②MIC1 LEVEL（マイク1音量調整）つまみ

マイク1の音量を調整します。右(時計方向)に回すほどマイクの音量が大きくなります。

③マイク1レベル・プリセットリング（外側）

あらかじめ必要なマイクの音量レベルをセットすることができます。

④⑤⑥⑦CHANNELS LEVEL（各スピーカー音量調整）つまみ／OPERATEインジケーター

各チャンネルの出力レベルを調整します。それぞれのつまみの上にはOPERATEインジケーターがついており、動作しているチャンネルを緑色のLEDで表示します。2ch動作の時はCH-1とCH-2が点灯し、4ch動作の時にはすべてが点灯します。

※出力段の動作を表しており、ピークレベルではありません。

⑧LOUDNESS（ラウドネス）スイッチ

小さな音量でお聞きになるときに押し込むと、聴感上不足する低音と高音を補うことができます。もう一度押し込むと解除されます。

⑨PAGING（ページング）スイッチ／インジケーター

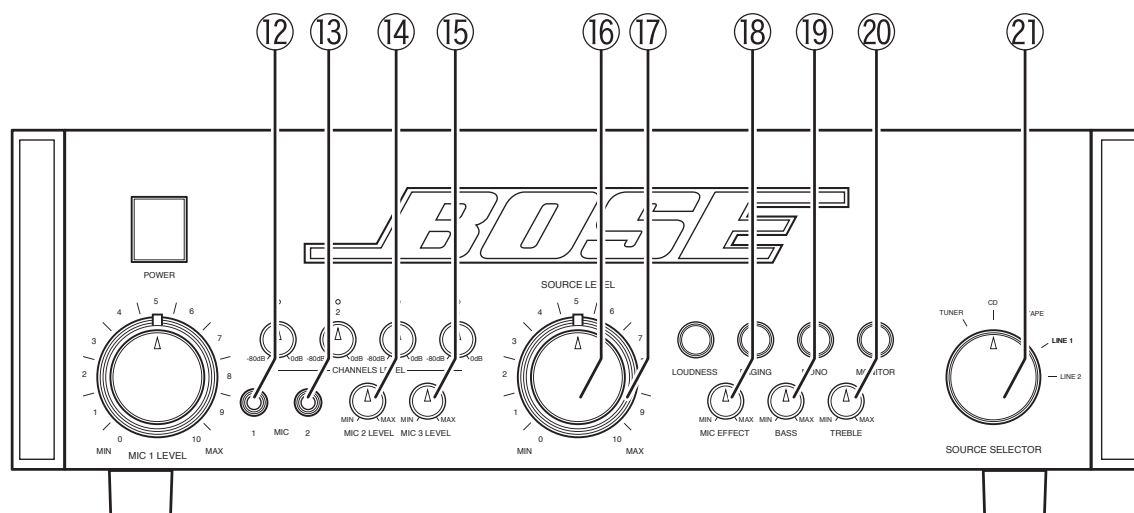
押し込むとインジケーターが点灯し、マイク入力を感知して、B.G.Mの出力レベルを自動的に下げます。もう一度押し込むと解除されます。（立ち上がり：0.1秒以下、復帰：2秒）

⑩MONO（モノラル）スイッチ

このスイッチを押し込むと、スピーカーの音声はモノラルになります。もう一度押すと解除され、ステレオになります。

⑪TAPE MONITOR（モニター）スイッチ

テープの音を聞くとき、録音中の音をモニターするときに押し込みます。解除するときはもう一度押し込みます。

各部の名称と働き

⑫⑬MIC1、2（マイク入力）ジャック

それぞれモノラル標準プラグ付きマイクが使えます。

⑭⑮MIC2、3LEVEL（マイク2、3音量調整）つまみ

マイク2、3それぞれの音量を調整します。

⑯SOURCE LEVEL（ソース音量調整）つまみ

CHANNELS LEVELつまみでチャンネルごとの音量バランスを調整した後、全体のソースのレベルを調整します。

⑰ソースレベル・プリセットリング（外側）

あらかじめ必要なソースの音量レベルを設定することができます。

⑱EFFECT（エフェクト音量調整）つまみ

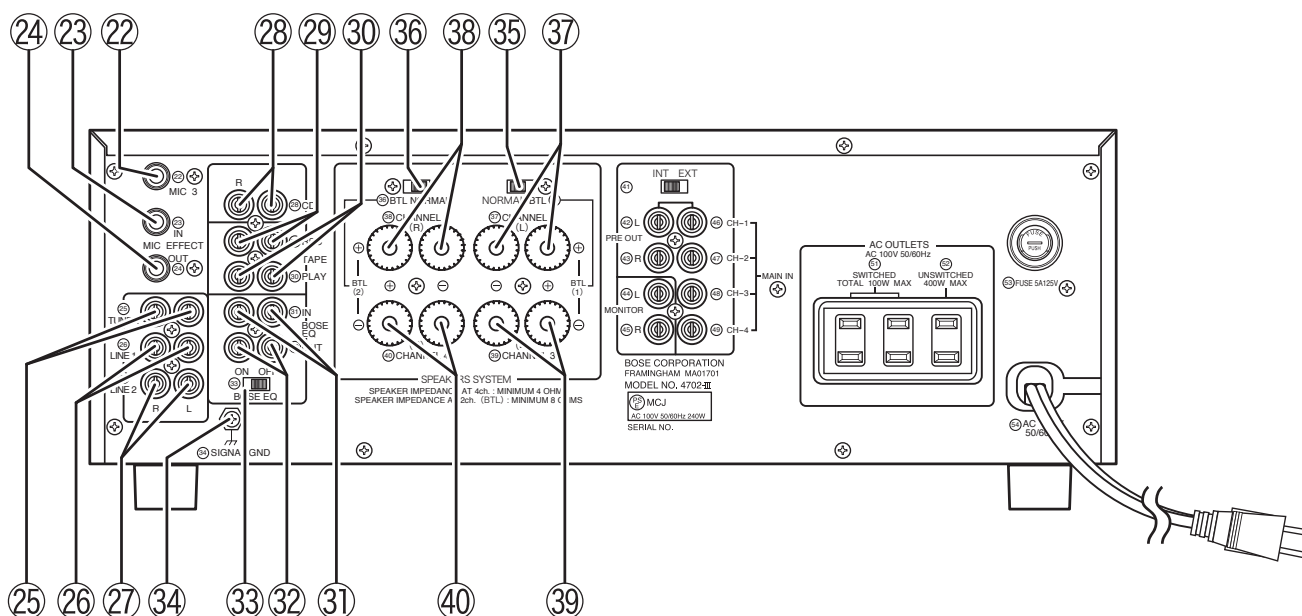
本機背面のMIC EFFECT端子に外部エフェクターが接続されているときに、その効果の程度を増減します。MINの位置では外部エフェクターの効果は最小で、MAXの位置で効果が最大になります。エフェクトはマイク（1、2および3）入力にだけ有効です。

⑲BASS（低音域調整）、⑳TREBLE（高音域調整）（トーンコントロール）つまみ

BASSは低音、TREBLEは高音を調整します。それぞれ右方向に回すと強調され、左に回すと抑えられます。

㉑SOURCE SELECTOR（ソース選択）スイッチ

聞きたいプログラムソースを選ぶときに使います。TAPEを選ぶときはSOURCE SELECTORをTAPEの位置にし、MONITORスイッチをONにします。

各部の名称と働き

㉒MIC3（マイク入力）ジャック

モノラル標準ジャック

㉓㉔MIC EFFECT IN/OUT （マイクエフェクト入出力）端子

外部エフェクターを接続します。

㉕TUNER入力端子

㉖LINE1入力端子

㉗LINE2入力端子

㉘CD入力端子

㉙TAPE REC端子

㉚TAPE PLAY端子

㉛BOSE EQ IN端子

㉜BOSE EQ OUT端子

㉝BOSE EQ ON/OFFスイッチ

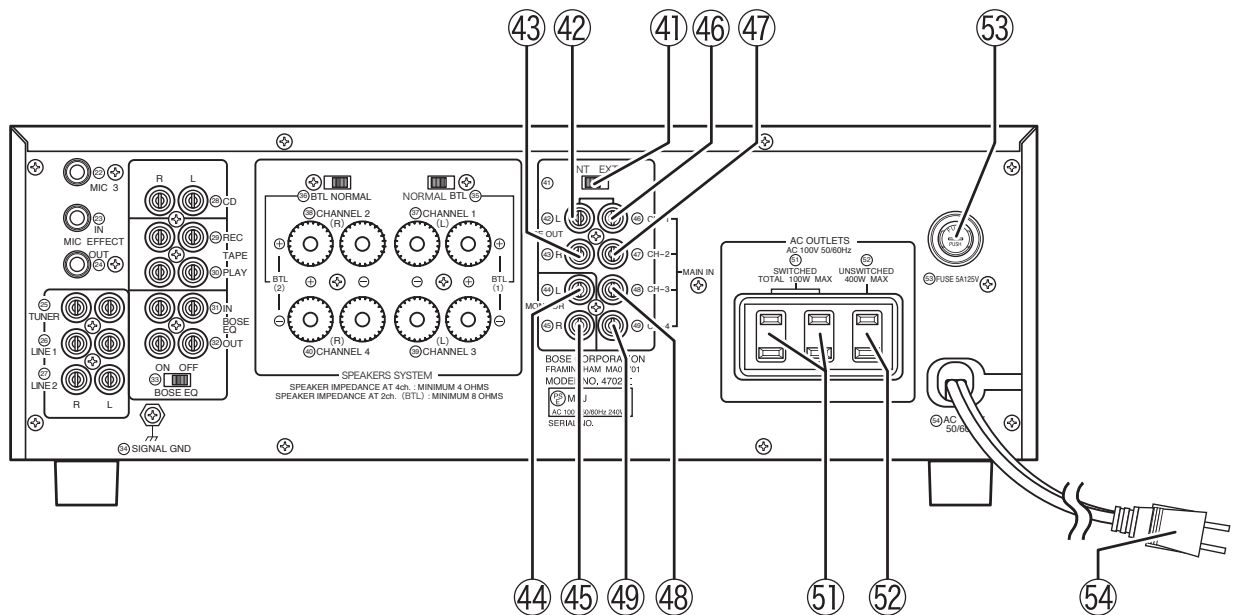
㉞SIGNAL GND（信号グラウンド）

㉟㊱BTL/NORMALスイッチ

チャンネル1-3、チャンネル2-4をそれぞれBTL駆動することができます。

㊲㊳㊴㊵スピーカー出力端子

2ch（BTL）使用時には8~16Ωのインピーダンスのスピーカーシステムを接続してください。BTL（1）の端子に左チャンネル、BTL（2）の端子に右チャンネルのスピーカーを接続します。4ch使用時には4~16Ωのインピーダンスのスピーカーシステムを接続してください。

各部の名称と働き

㊶INT/EXTスイッチ

スイッチがINT側にあるときPREの出力はパワーアンプと内部で接続されています。EXT側にすると、プリアンプとパワーアンプが回路上分離され、プロセッサーやアダプターを接続することができます。

㊷PRE OUT L（プリアウト）端子

ソースとマイクがミキシングされた左チャンネル信号出力端子です。

㊸PRE OUT R（プリアウト）端子

ソースとマイクがミキシングされた右チャンネル信号出力端子です。

㊹MONITOR L（モニター）端子

PRE OUT L端子から出力される信号と同じ信号が出力されます。

㊺MONITOR R（モニター）端子

PRE OUT R端子から出力される信号と同じ信号が出力されます。

㊻㊼㊽㊾MAIN IN CH-1~4（メインイン）端子

パワーアンプにダイレクトに入力できる端子です。

51AC OUTLETS（電源コンセント）

SWITCHED（連動）コンセント:アンプのPOWERスイッチのONの時だけ電源が取れます。消費電力は合計100Wまでです。

52AC OUTLETS（電源コンセント）

UNSWITCHED（非連動）コンセント:アンプのPOWERスイッチのON/OFFにかかわらず、常に電源が取れます。消費電力は400Wまでです。

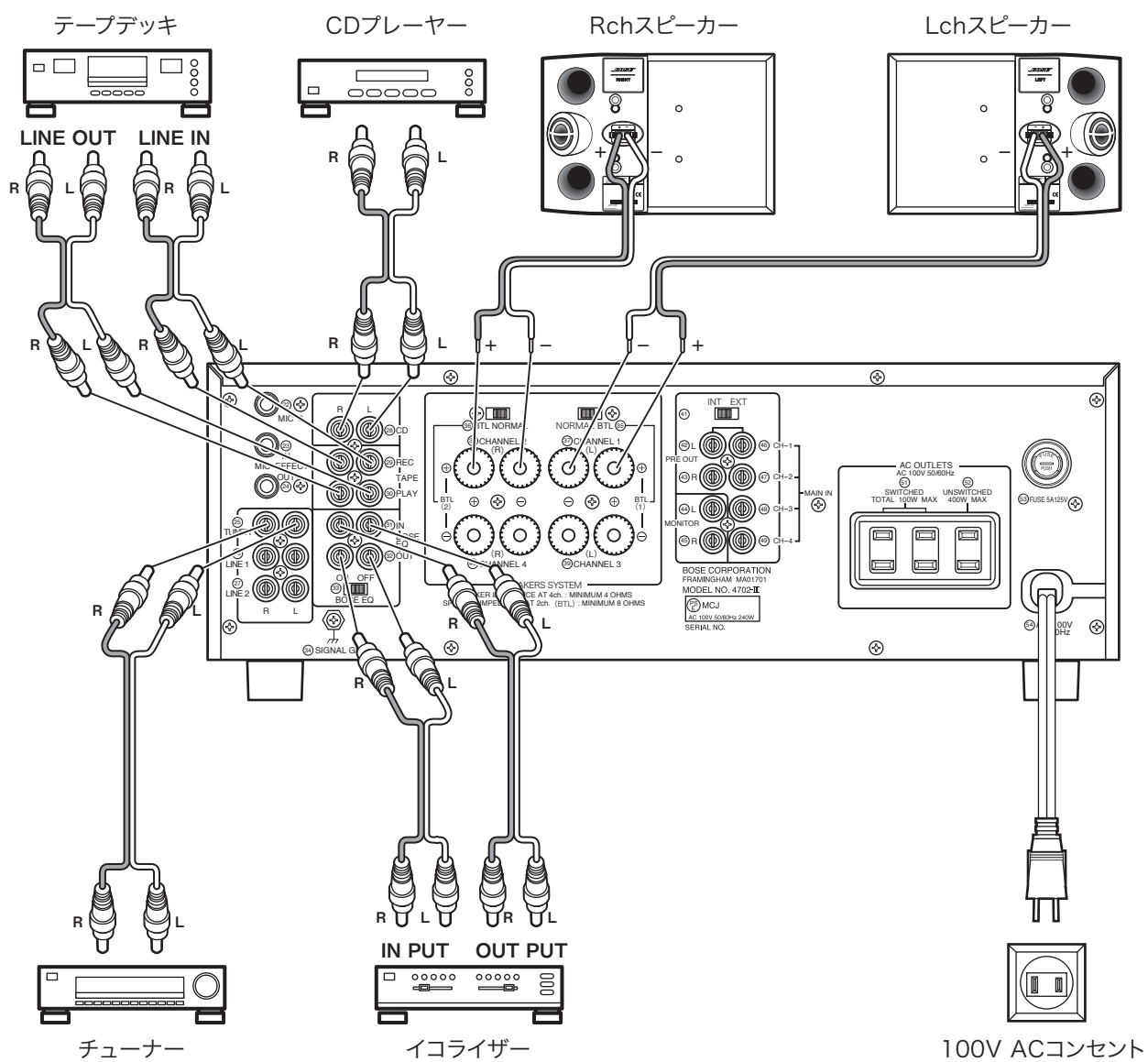
53電源ヒューズ

不慮のトラブルからアンプを保護します。ヒューズを交換するときは、必ず同じタイプのものをご使用ください。決して銀紙や針金などは使用しないでください。故障や火災事故の原因となる場合があります。ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、内部のトラブルが考えられますのでお買い上げになった販売店へご連絡ください。

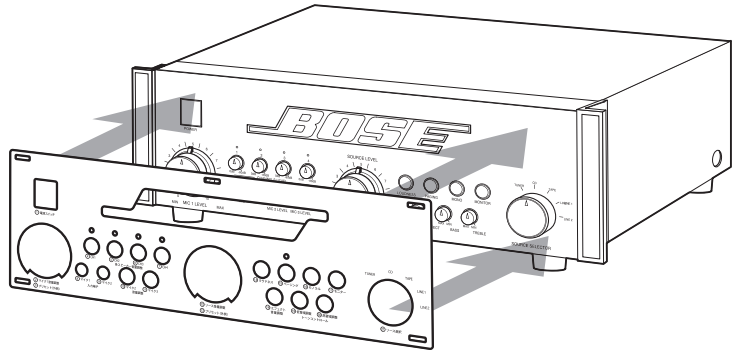
54AC100V（電源コード）

家庭用AC100Vコンセントに差し込みます。

接続のしかた

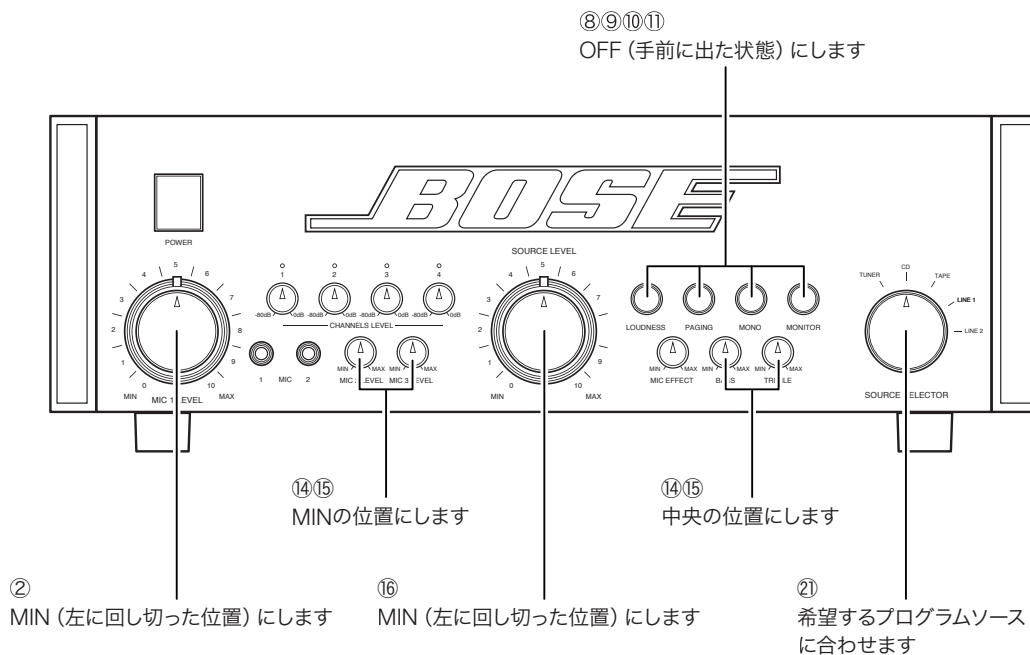
※事故防止のため、接続はPOWERスイッチを必ずOFFにして行ってください。
プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続はノイズの原因になります。

※BOSE EQ IN/OUT端子に接続して使用する場合は、BOSE EQ ON/OFFスイッチをONにしてください。

操作補助シートの使い方

操作がわからなくなったり、操作に不慣れな方がお使いになる際に、操作方法を素早く確認するためにお使いいただけます。本機のフロントパネルにシートの上下左右を合わせ、シートの6箇所にある両面テープをはがして貼り付けます。シートに書いてある番号と説明書の"各部の名称と働き"の番号が対応しています。該当する番号の、機能と使い方を参照してください。

使用方法

◆基本的な再生

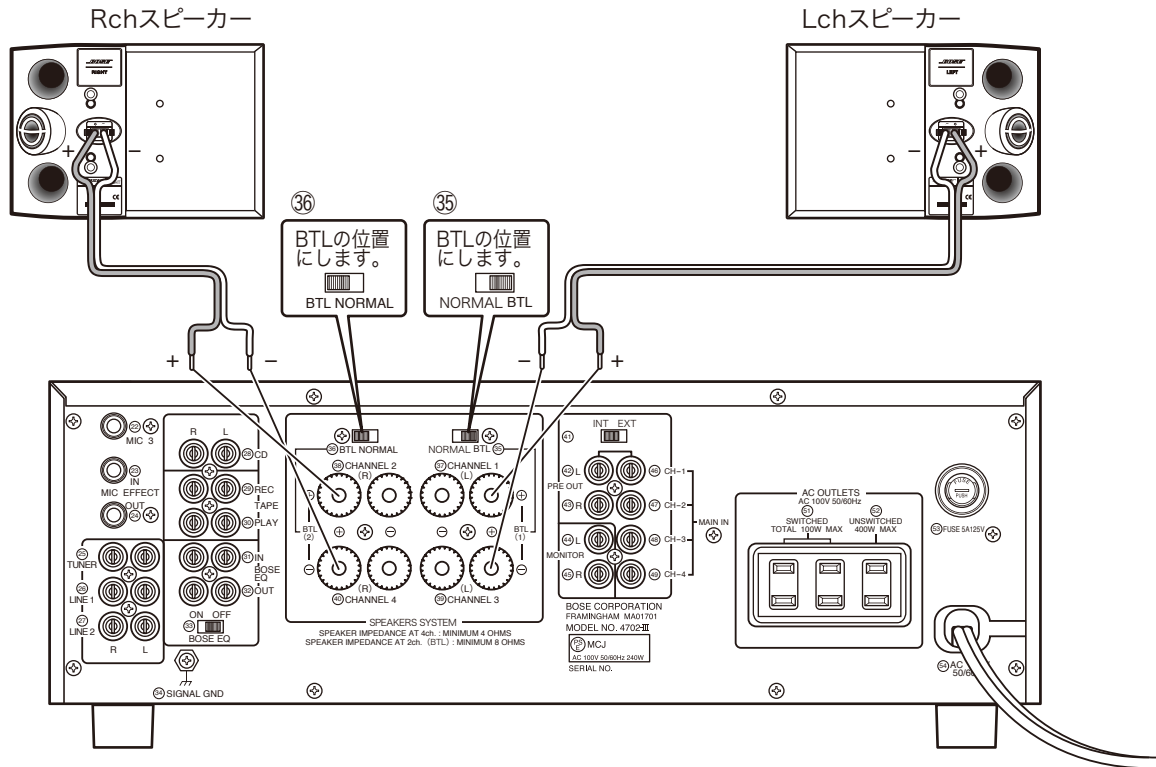
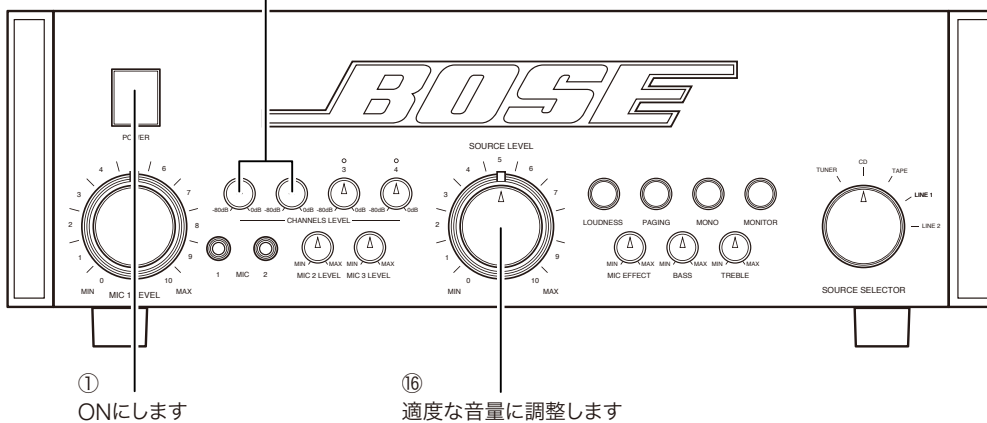
準　備

●マイクの音量調整つまみ②、⑭、⑮とソース音量調整つまみ⑯を最小（左に回し切った状態）にします。
●ラウドネス⑧、モノラル⑨、ページング⑩、テープモニター⑪の各スイッチをOFF（手前に出た状態）にします。
●トーンコントロールの低音域⑲、高音域⑳調整つまみを中央に合わせておきます。
●ソース選択スイッチ㉑を聞きたいプログラムソースに合わせます。

2chステレオ再生の操作

●背面のBTL/NORMALスイッチ㉟、㊱をそれぞれBTLの位置にして、左chスピーカーをBTL（1）に、右chスピーカーをBTL（2）に接続しておきます。

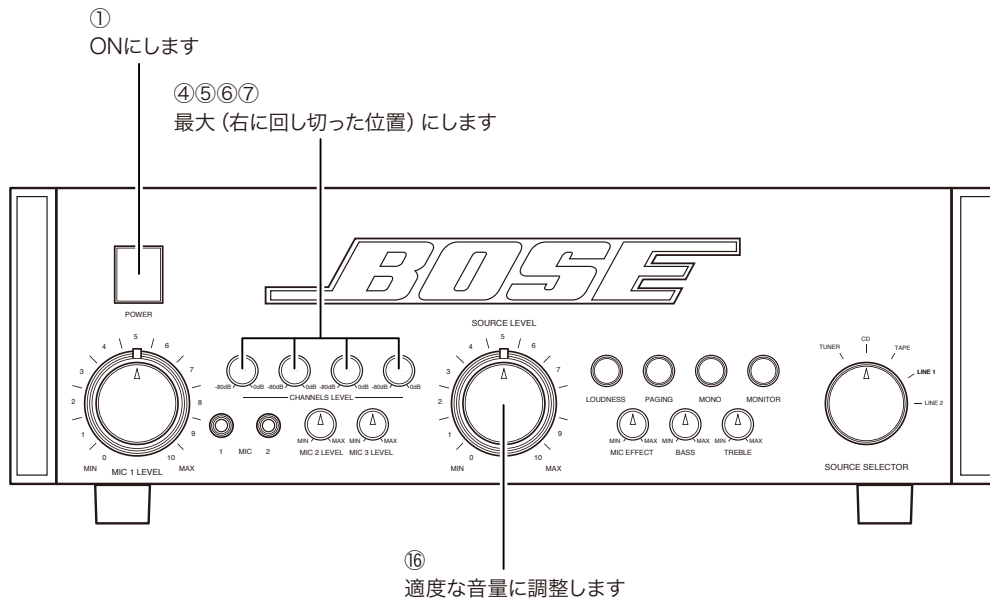
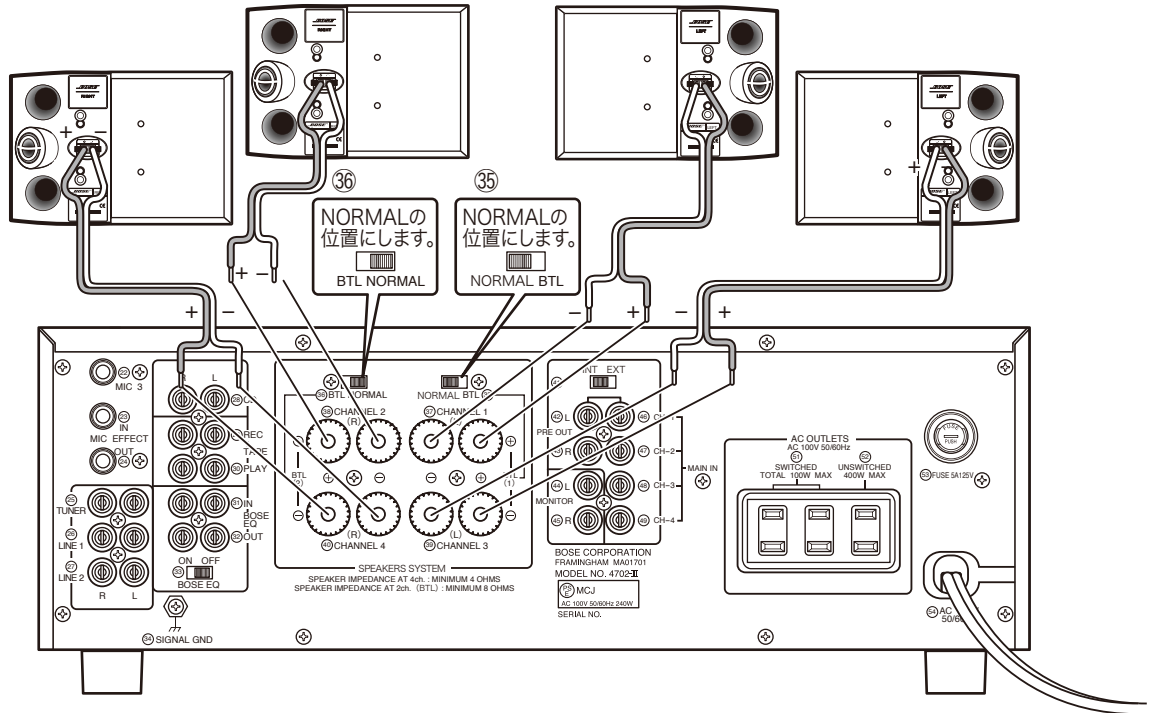
●スピーカーの音量調整つまみ④、⑤を最大（右に回し切った状態）にします。

●POWER電源スイッチ①をONにします。（BOSEの周囲が点灯します。）数秒後にカチンと音がして動作状態になります。使用する機器の電源もONにします。

●プログラムソースの演奏を始め、ソース音量調整つまみ⑯を右方向に徐々に回していき適度な音量に調整します。

4ch再生の操作

●スピーカーの音量調整つまみ④、⑤、⑥、⑦を最大にします。

●背面のBTL/NORMALスイッチ㉟、㊱をそれぞれNORMALの位置にして、CH1㊲とCH3㊴に左スピーカーを、CH2㊳とCH4㊵に右スピーカーをそれぞれ接続します。

●準備ができたら、2ch再生時と同様にプログラムソースを再生してください。

◆3chの特殊な再生の操作

本機はCH1とCH3、CH2とCH4をそれぞれ別々にBTL接続することが可能です。この機能をいかして、ステレオスピーカーとサブウーファーの組み合わせで、マルチアンプドライブすることが可能です。

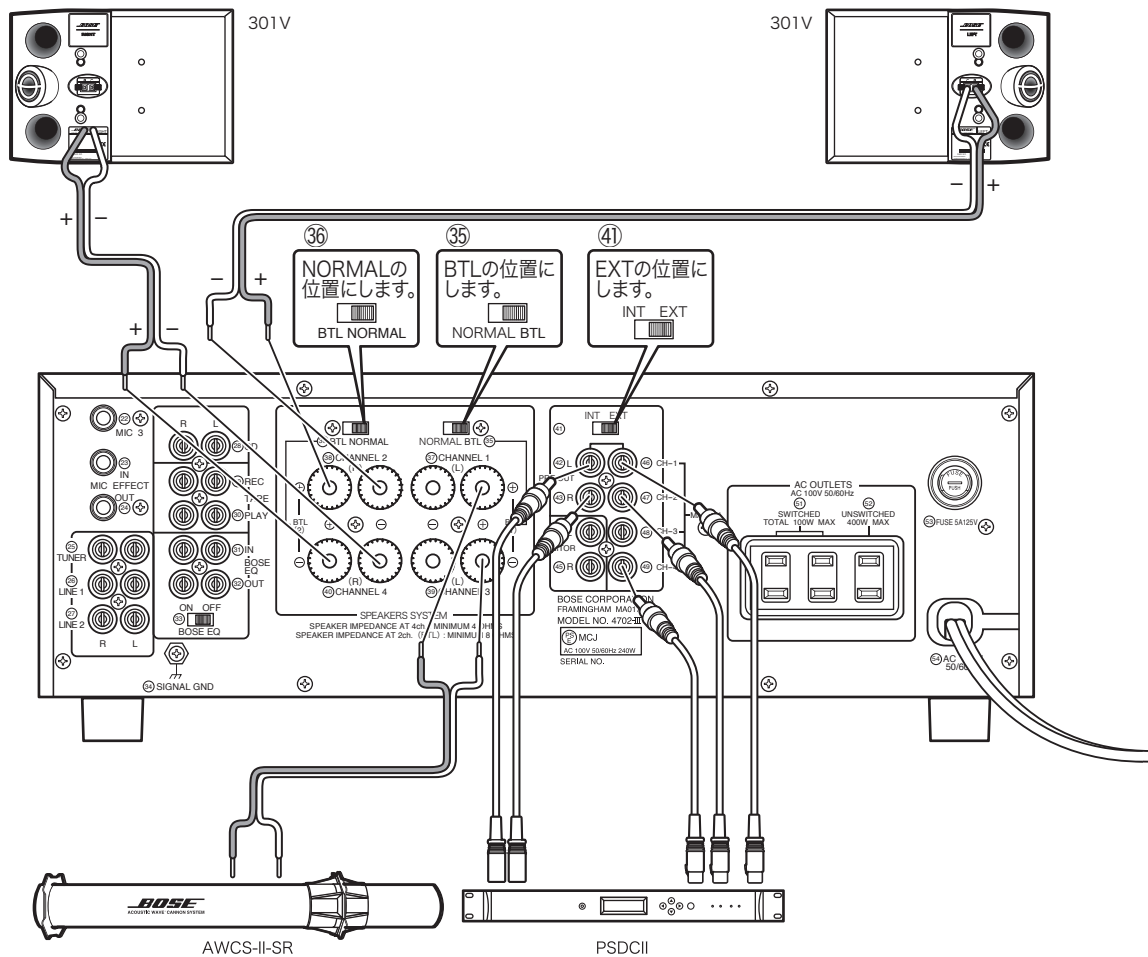
301VとAWCS-II-SRを使用した例

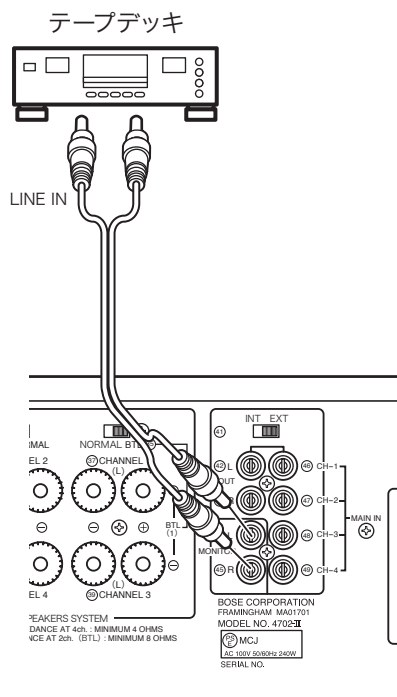
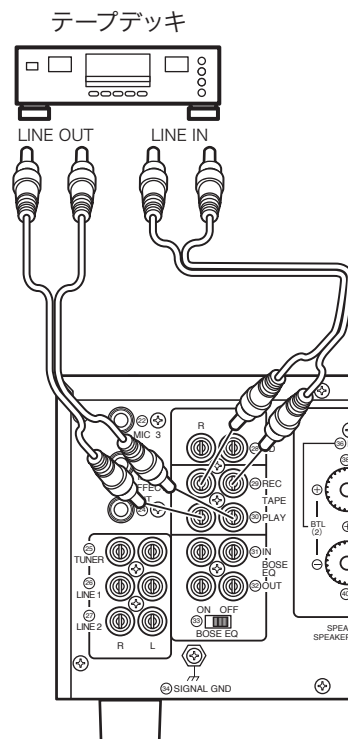
●BTL/NORMALスイッチ㉟をBTLに、もう一方のスイッチ㊱をNORMALにし、INT/EXTスイッチ㊶をEXTにします。

●本機のプリアウト端子㊷、㊸とPSDCIIのインプット端子を接続します。（接続のしかたはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。）

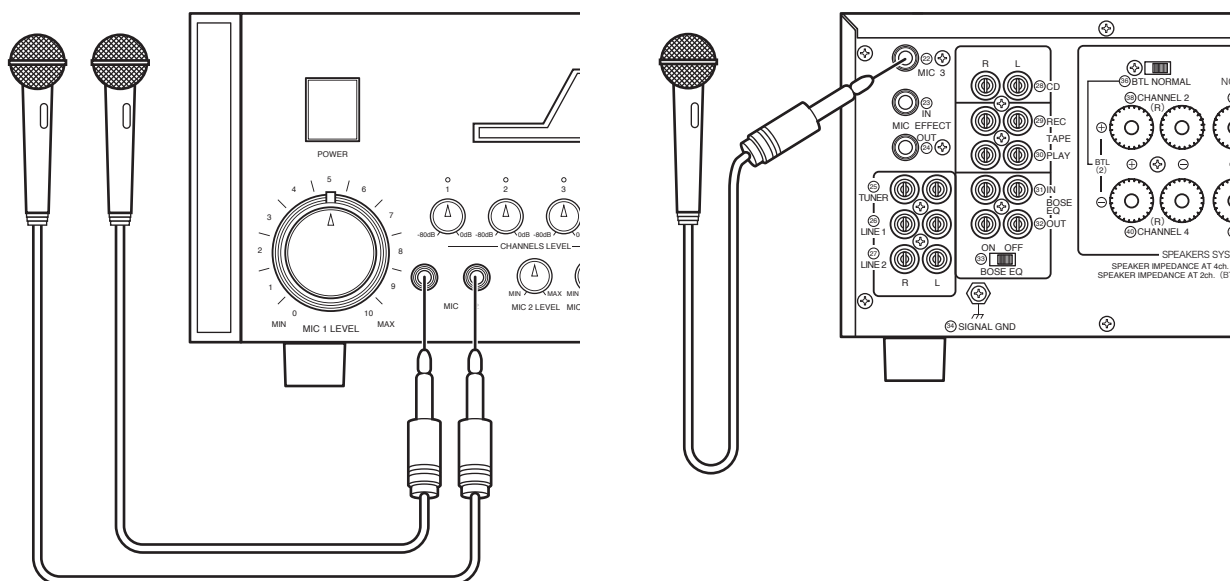
●PSDCIIのAWCS-II-SR用の出力を本機のMAIN INのCH1㊻に、中高域用出力のL、Rを本機のMAIN INのCH2㊼、CH4㊾にそれぞれ接続します。

●スピーカー出力のBTL（1）の端子にAWCS-II-SRを接続し、CH2㊳に301Vの左スピーカーをCH4㊵に右スピーカーを接続します。

●各機器の調整をしながら、プログラムソースを再生します。

◆録音端子の使い方

●ソースとマイクのミキシング信号を録音するときは、テープデッキをMONITOR（モニター）端子㊹、㊺に接続してください。

●ソースの信号を録音するときは、テープデッキをTAPE（テープ）端子㉙、㉚に接続してください。

◆マイク放送をするには

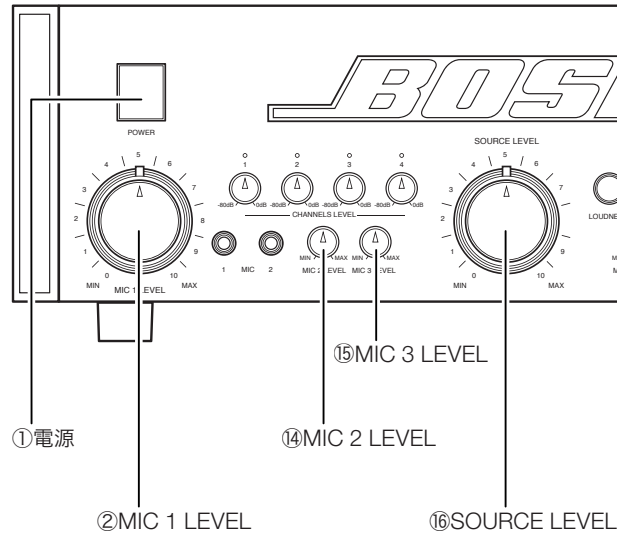
マイクの接続

本機には前面に2つ⑫、⑬、背面に1つ㉒の計3つのマイク入力ジャックが備えられています。それぞれモノラル標準プラグ付きマイクを接続することができます。それぞれのマイクはマイクレベルで個別に調整できます。

マイクの音量調整

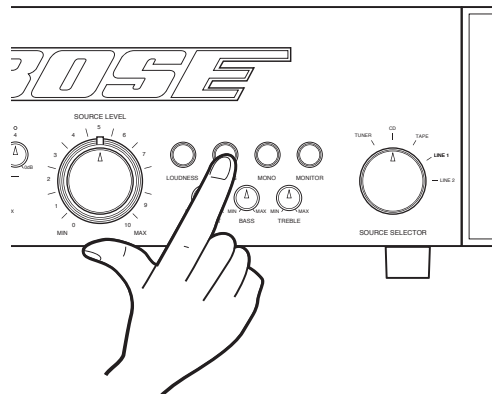
1. MIC1 ②、2 ⑭、3 ⑮、のLEVELつまみをMIN（左に回し切った状態）にしておきます。

2. アンプの電源①をONにします。

3. MIC1の音量調整：
MIC1LEVEL ②を回して適度な音量にします。
MIC2の音量調整：
MIC2LEVEL ⑭を回して適度な音量にします。
MIC3の音量調整：
MIC3LEVEL ⑮を回して適度な音量にします。

4. SOURCEとのミキシング
MIC音量②、⑭、⑮とソース⑯の音量は独立して調節できます。各々のマイクレベルとソースレベルのつまみを操作して、音量バランスとか、フェードインまたはフェードアウト等のミキシング効果を演出できます。

ページング効果

PAGING（ページング）スイッチ⑨を押し込むとインジケーターが点灯し、B.G.M.を流している際にマイクから入力された信号を感知して、アナウンスの明瞭度を確保できるようB.G.M.のレベルを自動的に下げることができます。

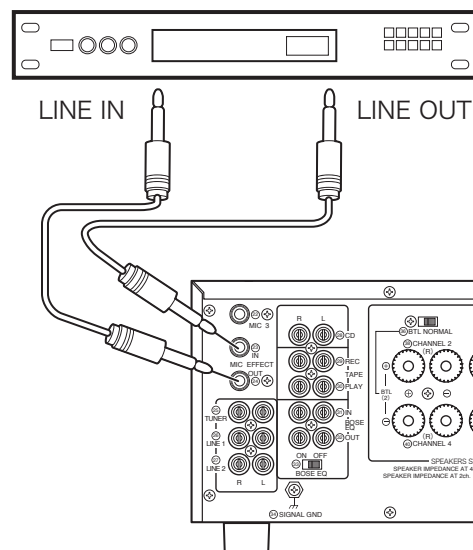
※誤ってトリガー信号が流れた場合でも音楽ソースがミュート（消音）されないようトーク・スイッチ付きのマイクをお使いいただくようお勧めいたします。また、マイクをお使いにならない場合にはPAGING（ページング）スイッチはOFFにしておいてください。

外部エフェクターを使うときは

本機は外部エフェクター用の入出力端子㉓、㉔を備えています。外部エフェクターを接続することにより、マイクの音声にエコー、コーラスなどの特殊効果を加えることができます。

エフェクターの接続

外部エフェクターは、アンプ背面のEFFECT IN/OUT端子㉓、㉔に接続します。

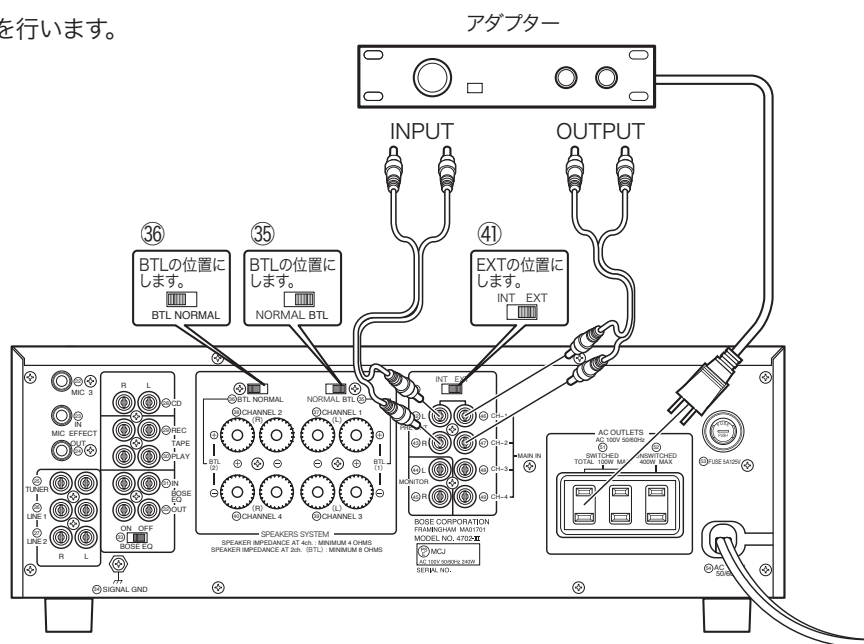
エフェクターの効果調整

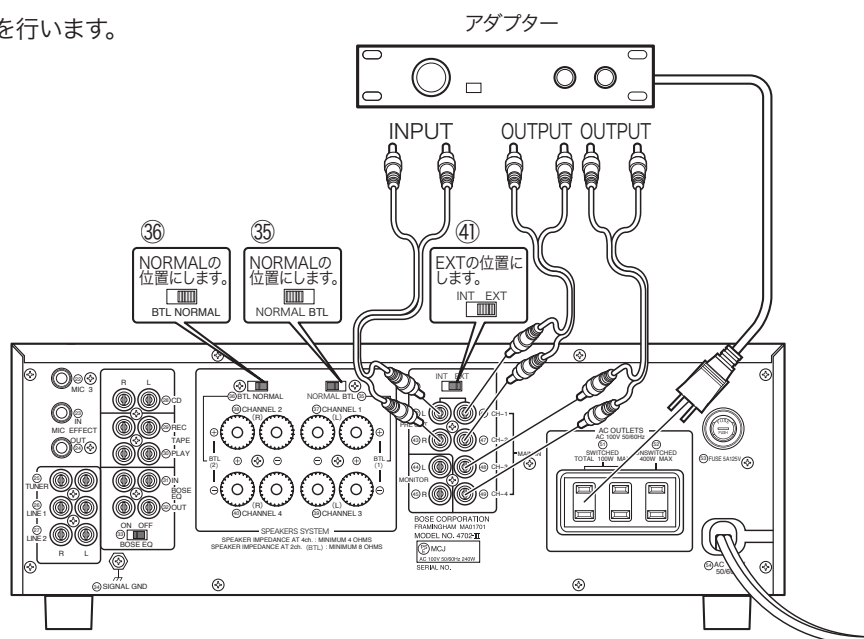
外部エフェクターによる効果の程度を、アンプ前面のEFFECTツマミ⑱で調整することができます。MINの位置では効果は最小になり、MAXで最大の効果が現れます。エフェクターはマイク端子に接続されたものにのみ働きます。

◆プリアウトとメインイン端子の使い方

必要に応じて外部にアダプター（イコライザー、プロセッサー等）を接続することができます。
※アダプターの接続を行うときには、事故防止のため必ずすべての機器の電源をOFFにしてください。

●INT/EXT切り替えスイッチ㊶をEXT側にし、プリ部とパワー部を分離します。

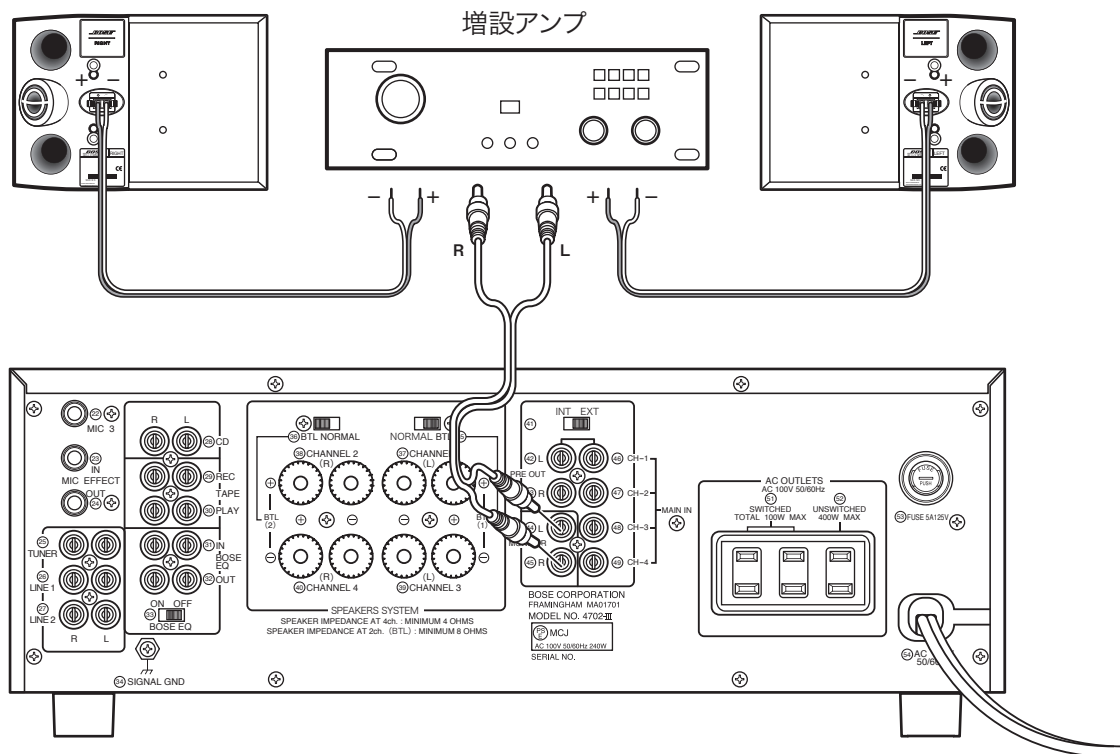
2chアダプターを接続するとき

●スピーカーOUTPUTのNORMAL/BTLスイッチ㉟、㊱をBTLにし、PRE OUT㊷、㊸とアダプターの入力端子とを接続します。
●アダプターの出力をMAIN INのCH-1、CH-2、㊻、㊼に接続します。
●電源スイッチをONにします。
●アダプターの調整を行います。

4chアダプターを接続するとき

●スピーカーOUTPUTのNORMAL/BTLスイッチ㉟、㊱をNORMALにし、PRE OUT㊷、㊸とアダプターの入力端子とを接続します。
●アダプターの出力をMAIN IN㊻、㊼、㊽、㊾の全チャンネルに接続します。
●電源スイッチをONにします。
●アダプターの調整を行います。

モニター(MONITOR)端子の使い方

モニター端子㊹、㊺には常時プリアウトの信号が出力されています。ソース及びマイクがミキシングされた信号です。

●スピーカーの増設の必要から、パワーアンプを接続するときに使います。この端子から別のプリメインアンプやパワーアンプの入力端子にLとRを確認して、接続してください。

※ご注意、増設するアンプの電源のON/OFFは本機と同時に行うか、ONの時は本機の電源を先に入れてから4~5秒後に増設アンプの電源を入れてください。OFFの時は本機の電源を先に切り、次に増設アンプの電源を切ってください。

故障と思う前に

問　題	原　因	処　置
音が出ない	各スピーカーの音量調整つまみが左に絞り切った状態になっている。	つまみを右に回す。
	スピーカーコードまたは接続コードがはずれている。	接続を確認する。
	ソース音量調整つまみがMINになっている。	つまみを右に回す。
	プログラムソースが正しく選択されていない。	ソースセレクターを聞きたいプログラムに合わせる。
	組み合わせている機器の電源が入っていない。	CD、チューナー、デッキなども確認する。
片側から音がでない	スピーカーコードまたは接続コードがはずれている。	接続を確認する。
急に音が出なくなった	プロテクター回路が働いている。	いったん電源を切り、コード類がショートしていないかを確認し、ヒューズを交換する。その後電源を入れる。 ※繰り返しプロテクター回路が働く場合には、直ちにご使用をやめ、ボーズ・サービスセンター株式会社にご連絡ください。
再生音が不自然で音像が定位しない	トーンコントロールが適当でない。	正しく調整する。
	スピーカーの極性（⊕、⊖）を間違えて接続している。	正しく接続し直す。

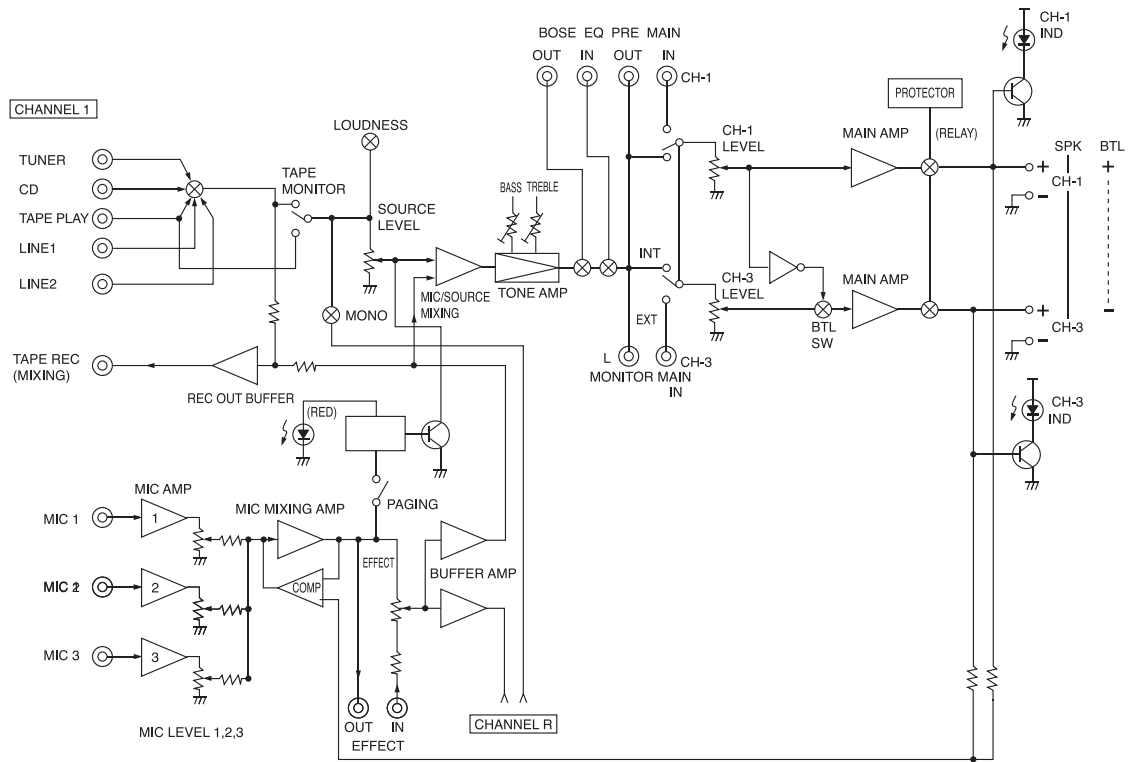
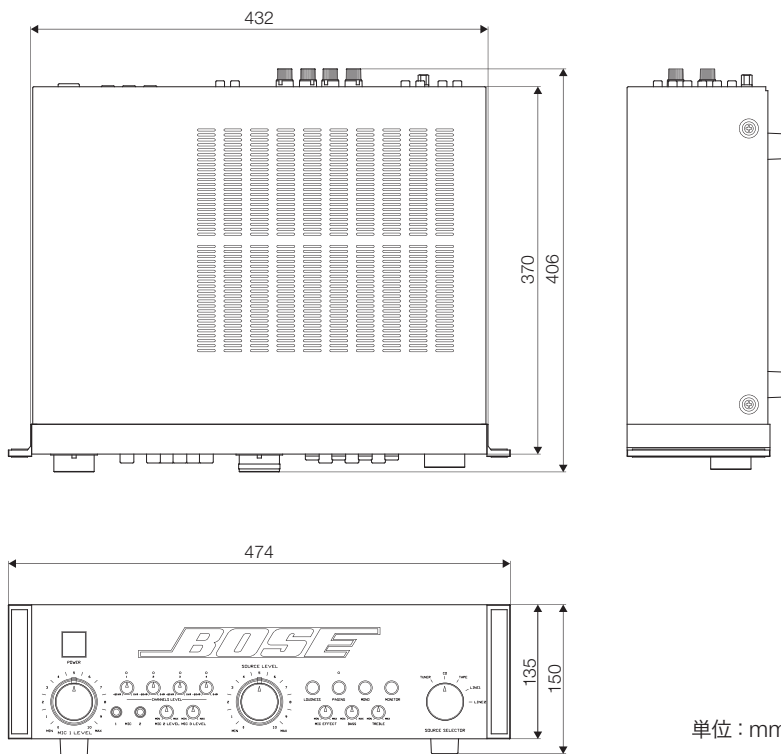
お問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせ先
ボーズ株式会社　サービスセンター
お客様専用ナビダイヤル 0570−080−023
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-1124へおかけください。
〒206-0035 東京都多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先
ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター
お客様専用ナビダイヤル 0570−080−021
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-0955へおかけください。

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ブロックダイヤグラム

寸法図

単位：mm

仕　様

定格出力
- 2CH動作（20Hz~20kHz、8Ω） ………… 100W×2
- 4CH動作（20Hz~20kHz、8Ω） ………… 50W×4

出力帯域幅
- THD、0.05% ………… 15Hz~50kHz

全高調波歪率
- 定格出力時 ………… 0.03%

混変調歪率 ………… 0.03%

周波数特性
- ±1.5dB ………… 20Hz~40kHz

入力感度／入力インピーダンス
- TURNER、CD、TAPE、LINE ………… 150mV/47kΩ
- MIC1、2、3 ………… 3mV/600Ω
- MAIN IN ………… 1.2V/25kΩ
- EFFECT IN ………… 150mV
- EQ IN ………… 1.2V/12kΩ

出力レベル/出力インピーダンス（CD 150mV入力時）
- TAPE OUT ………… 500mV/470Ω
- PRE OUT ………… 1.2V/470Ω
- MONITOR ………… 1.2V/470Ω
- EQ OUT ………… 1.2V/470Ω
- EFFECT OUT（MIC 3mV入力時） ………… 150mV/470Ω

マイク最大許容入力
- MIC1、2、3 ………… 200mV

SN比（A-WTD）定格出力時
- MIC ………… 70dB
- LINE ………… 90dB

トーンコントロール特性
- BASS（100Hz） ………… ±10dB
- TREBLE（10kHz） ………… ±10dB

ラウドネス特性
- 100Hz ………… +6dB
- 10kHz ………… +4dB

クロストーク特性
- 100Hz ………… 60dB
- 1kHz ………… 55dB
- 10kHz ………… 40dB

ページング特性
- MUTING LEVEL ………… 20dB
- ATTACK TIME ………… 2mS
- HOLD TIME ………… 2000mS

その他
- 電源 ………… AC100V 50/60Hz
- 電源ヒューズ ………… 5A 125V

消費電力
- 電気用品安全法 ………… 240W
- 外形寸法 ………… 474（W）×150（H）×406（D）mm
- 質量 ………… 13.3kg

ボーズ株式会社　http://www.bose.co.jp/
〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル

●仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品は、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

OM-0072
10・12-D (B)

00M189S851115